

北海道森林管理局

指導普及課だより

平成20年5月
第10号
〒064-8537
札幌市中央区宮の森3-7

森林再生ボランティアの森林づくり3年目になりました！ 新しい仲間を迎えて新たな出発です。

4月24日に「森林再生ボランティア連絡会」が千歳市で開催されました。平成16年9月に支笏湖周辺・樽前山麓を襲った18号台風の被害地で、森林整備活動をしているボランティア団体の年1回の集まりです。胆振東部森林管理署管内で活動している9団体の他、昨年の秋から石狩森林管理署管内で活動を始めた5団体が加わり、総勢14団体となりました。会議では、各団体から昨年1年間の活動報告と今年の活動予定が報告され、管理署からは安全対策や山火事防止についての注意喚起と確認を行いました。今回は、スズメバチ被害が話題になり、黒い服を着ていると襲われやすいこと、スズメバチは生態系の頂点にあり嫌われやすいが実は自然界に無くてはならない存在であるなど活発な意見交換がなされていました。



森林再生ボランティアの森林づくり参加ボランティア団体



【胆振東部森林管理署管内】

ケイセイマサキ建設(株)、森林ボランティアふれあいの森づくり会、宗教法人天理教苦錦分教会、林業土木技術懇話会、体験林業年輪クラブ、北海道リコー(株) NPO法人環境対策連合会、(株)開発工営社地質部、NPO法人水環境を考える会

【石狩森林管理署管内】

北海道リコー(株)、(株)丹波組、(有)樹木コンサルタント、NPO法人北海道森林ボランティア協会、北ガスサービス(株)

緑の募金出発式が赤レンガ庁舎前で開催

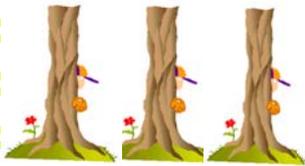
4月26日(土)、毎年恒例の緑の募金出発式が北海道庁赤レンガ庁舎前にて行われました。北海道森林管理局からは、谷口次長が来賓として出席し、クリーンラーチの記念植樹を行いました。クリーンラーチとは、北海道林業試験場が開発したCO2の吸収が在来種より20%も多い、カラマツとグイマツの交配品種です。子どもたちに大人気の森の住人カンフーパンダも応援に駆けつけ出発式を盛り上げました。今年は7月に行われる「北海道洞爺湖サミット」の気運醸成と成功を願い、募金期間を7月9日までとしています。



技術開発～試験地調査業務はじまる～ 新しい機器を使って効率よく調査

今年度の試験地調査は、十勝西部森林管理署東大雪支署管内の「アカエゾマツ人工林収穫調査地」を皮切りにスタートしました。収穫試験地は、昭和36年に開始され、北海道内では北海道森林管理局及び森林総合研究所北海道支所が調査箇所を分担し、森林総合研究所が計算及び取りまとめを行うこととし、5年又は10年単位で調査を行っています。平成20年4月1日現在、北海道内には71箇所の収穫試験地があり、これまでの調査データは林分密度管理図、収穫予想表等の作成に用いられます。今年の調査には、レーザー樹高測定器を導入しました。今までの測定器に比べ軽量化され持ち運びが楽になったのと、レーザーで測定するため、雨天時の調査が可能になりました。

今後の活躍が期待されます。



～豆記者たちの突然の訪問～ 今年の森林くらはは！？

経理課企画係長から「玄関に山の手南小学校の生徒が3名来ているんですけど・・・。」内線電話が入り、アポイントなしの突然の訪問に驚きました。と、いっても森林管理局のすぐ近くにある学校で、毎年、年3回くらいの訪問を受けている学校です。昨年同様、学校の新聞を作るための取材に6年生3名が訪れました。今回のテーマは、自然遺産、知床についてです。知床の豊かな自然環境、人間の営みとの関係について簡単ですが質問に答えながらお話ししました。併せて「知床ボランティア施設」がオープンしたこともお知らせしました。取材後には、玄関ホールで道産材をふんだんに使った森林管理局の建物やプロ野球選手の使うアオダモの木のバットの紹介をし、出来た新聞をもらう約束をしてお別れしました。



今年度の森林ふれあい推進事業（愛称「森林くらはは」）は、春と秋の全2回を予定しています。1回目は、北海道洞爺湖サミットを記念し、洞爺湖周辺の変化ある自然を堪能していただきます。洞爺湖中島の巨樹巨木100選に選ばれたアカエゾマツの見学、有珠山噴火跡地では、一般に知ることの出来ない治山工事の歴史を解説いたします。



写真/H19年森林ふれあい推進事業

回	イベント名	日にち
1	【洞爺湖サミット記念】洞爺湖中島の樹木と有珠山（噴火）治山工事現場見学	5月31日(土)
2	樹木と石からのぞく日高山脈森林ウォーク	9月6日(土)